

くつろぎ タイム



株式会社東北プリント
(青葉区立町)
代表取締役社長
仙台商工会議所 1号議員

ふじい はるお
藤井 治夫 氏

昭和23年2月28日生まれ
仙台出身 血液型O型

早朝のストレッチや散歩、 高校・大学の同窓生との会話が リフレッシュになっています。

昭和41年仙台商業高校を卒業後、東北学院大学経済学部に入社。大学卒業後、東京の印刷会社に入社。4年間経験を積んだ後、仙台に戻り、父親が興じた(株)東北プリントに入社。昭和58年代表取締役社長に就任した。大学でも経済については学びましたが、数字遊びが好きになったり、經理の数字を読み解いたりといったような会社経営の基盤となる知識を培ったのは高校時代だったと思います。高校、大学の同級生の多くが仙台にいますので、いまでも交流が続いているんです。商売をしている人も結構多いですから、そういう意味では、いろいろと情報交換することもできますし、地元に住んでいる良さを実感しています」と笑顔で話す。

大学時代はワンダーフォーゲル部にいらっちゃったそうですが、今も交流が続いているのですか。

はい。しょっちゅう顔を合わせています。しかし、私は2年生のときに山で右膝を複雑骨折したのがもとで…もちろん怪我は完治したのですが…それをかばっていた左足の具合が芳しくなくなったことから、いまは里山歩きくらいの活動にしか参加していません。ですから、仲間たちが昔の思い出話をしながら山登りを楽しんでいるのを、非常にうらやましく思っています。それにつけても、休日に学生時代の仲間と会い、共に時間を過ごす楽しみがあるというのは、本当に良いことです。

ワンダーフォーゲル部の活動で、特に印象に残っているのはどんなイベントか。

東北のほとんどの山を登ったと記憶して



ワンダーフォーゲル部の登山の様子。
先頭が大学2年生当時の藤井さん。

いますが、思い出されるのは、夏なら2週間は山にもって行われる合宿のときのことでしょうか。背中に担いだザックの重さは、2年生なら一人約25から30キロ、1年生は50キロにもなるんですが、1年生のザックに入っているのは、主にテントなどの団体装備と非常時の米なので、帰りもその荷物の重さは変わらないんです。それが何ごともなく下山した証になるわけですが、1年生が背負うのはトレーニングのためと聞いて、そういう伝統なんですかね(笑)。

また、山では7人から8人でチームを組んで行動しますが、何が起きても判断するのはリーダーです。私も経験しましたが、知らず知らずのうちに決断力が養われたのでしよう。それが今になっても、とても役に立っていて、良かったなと思います。

役に立ったと言えば、山の上では天候を知ることが非常に大切です。それによって次の日の予定を組むということもあって、ラジオの短波放送を聞きながら、その情報

をもとに白地図に天気図を書き込んだものです。部活動のおかげで、天気図も書けるようになりました。

里山歩きとはいえ、日ごろから体力維持を心がける必要がそこそこですね。

特別なことは何もしていませんが、私は朝が早い生活なものですから、5時過ぎに起きてまずストレッチをしまして、その後、平日は30分ほど散歩に出かけます。休みの日はその時間が1時間くらいになります。歩きながら、今度の会合の顔ぶれを想像して、あいさつを考えたりしますが、それでも、いい気分転換になるんです。

健康管理の面で気をつけていることはありますか。

食事は、家内が塩分控えめにするなどで気を遣ってくれています。とてもありがたいのですが、「もう少し、醤油をかけてもいいじゃないか」なんて思う時もあります。薄味が身体に良いのは、分かっているんですけどね(笑)。

食べることが好きなので、休日は人から聞いた評判の良い店や、雑誌やネットで見た店に出かけることもあります。蕎麦なら山形まで足を伸ばすこともあります。仙台の店が多いですね。

お酒については、寝る前に焼酎を飲んで、余計なことを考えずに寝るとするのが習慣なので、365日飲んでいきます。しかし、自らお酒を飲みに行くことはほとんどありません。お酒の席に出ることはありますが、酔っ払うほどの量を飲めないものですから酔って家に帰ることもありませんので、家内にも「お酒をやめて」と言われ

たことがありません。たまに、夜のまぢを気持ちよさそうに千鳥足で歩いている人を見ると、とてもうらやましく思う時がありますね(笑)。

これから「やってみよう」と思っていることはありますか。

海外旅行もいいですが、休みが2日あれば、1日はゴルフがしたいですね。3年前に宮城県印刷工業組合の理事長を仰せつかったからは、行く機会が減ってしまいました。理事長としての仕事が入ったときに、ゴルフを優先することはできませんから。ですから、いまは予定が合わせやすい家内と行くようにしています。

また趣味ということではありませんが、会社として、震災復興に息の長い支援を続けていきたいと思っています。

最後に、「好きな言葉」をお聞かせください。

好きな言葉ということではないのですが、「数字は嘘をつかない」と言われますけれども、一方ではいくらでも嘘がつけるのが数字だと思っています。数字が、と言いますが、それは人間が嘘をつくわけですが、だからこそ、決算書をはじめとする、経営状況を物語る数字や、その数字を扱う人を、しっかり見極めなければならぬと肝に銘じています。

そして、もう一つ。「どんな苦労も、泣いてするか、笑ってするか」。私は笑って乗り越えたいですね。人生は一度きりですから、できるだけ笑って過ごせたらいいなと思っています。

生命の母、たったひとつの『海』。

地球上のありとあらゆる生命の源、『海』。この、『母なる海』を、美しいままで未来へと残していかなくてはなりません。21世紀の子供たちも、今と同じようにこうして海で夏を過ごせるように。そう私たちは考えています。私たちは青葉環境保全です。

——より良い環境をめざす——
AOBA 青葉環境保全

本社/仙台市若林区蒲町19-1

電話(022)286-3161(代)

